

科目名称：	ホスピタリティビジネス論	
担当者名：	若月 博延	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
現在の社会はどのような商品においてもホスピタリティの部分大切にしており、企業が求める人財に対してもその部分を重要に考えている面があるため、色々な角度からのホスピタリティを学び、根本のマインドを醸成できるようにする。		
授業の達成目標・到達目標		
ホスピタリティマインドの醸成。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)	0	0	70	30	100
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	素晴らしい	とてもよい	よい	要努力
ソーシャルビジネスに対する理解を持つ	ソーシャルビジネスを自分なりに考え、形にすることができる。	ソーシャルビジネスへの理解があり、事例を説明することができる	ソーシャルビジネスとは何かを理解している。	ソーシャルビジネスの意味を理解していない
SDG s への理解を深める	ゴールターゲットをすべて理解し、自身で課題にするべきゴールターゲットがきまっている	ゴールターゲットをすべて理解している	17個のゴールターゲットのうち10個を理解している	SDG s とは何かを知っている

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 ホスピタリティとは(ホスピタリティの意味合いを確認するとともに、15回の講義を通じてホスピタリティを実践するマインドを創るための説明を実施。)	本シラバスを精読しておく。	40分
第2回 ホスピタリティに必要なもの(世界的に見た社会情勢から今後の世界を予測し、必要となるホスピタリティ能力を知る。)	「ホスピタリティに必要なもの」を調べておく。	40分
第3回 場面別ホスピタリティ(場面別の行動を見ることでホスピタリティとは何かを多角的に知る。)	場面別のホスピタリティについて調べておく。	40分
第4回 企業とホスピタリティ(企業が掲げる経営理念からホスピタリティを大切にしている企業の考え方を学ぶ。)	企業におけるホスピタリティについて調べておく。	40分
第5回 ホスピタリティ事例(過程の場面をもとにホスピタリティについてチーム別ディスカッションをする。)	ホスピタリティの実例について調べておく。	40分
第6回 サービスとホスピタリティの違い(二つの違いを学び、よりホスピタリティに溢れたマインドを育む。)	サービスとホスピタリティの違いについて調べておく。	40分
第7回 ホスピタリティ事例②(過程の場面をもとにホスピタリティについてチーム別ディスカッションをする。)	ホスピタリティの実例についてディスカッションの準備をしておく。	40分
第8回 インクルーシブ社会とは(通常の対人ホスピタリティではなく、インクルーシブの視点からのホスピタリティを学ぶ。)	インクルーシブ社会について調べておく。	40分
第9回 インクルーシブな視点で見るホスピタリティ(多様化する社会でのホスピタリティをディスカッション形式で見直す。)	インクルーシブな視点について調べておく。	40分
第10回 SDG s とは(SDG s を知ることでより今後の社会や企業の在り方を的確に捉える。)	SDG s について調べておく。	40分
第11回 SDG s とホスピタリティ(これからの企業が求めている社会課題を解決できる人材を育む。)	SDG s とホスピタリティについて調べておく。	40分
第12回 SDG s ワークショップ(チームディスカッションで創り上げる)	17個の課題をもとに何をすればどんな解決ができるかをチームディスカッションの準備。	40分
第13回 ワークショップ発表①	前回で出来上がったものの発表準備。	40分
第14回 ワークショップ発表②	前回で出来上がったものの発表準備。	40分
第15回 ありがとう表彰(講義を通じて育んだそれぞれのホスピタリティマインドを表彰する。)	発表を復習しておく。	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。  
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる

#### 成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。  
レポートにて評価する(70%) 授業への積極的関与(30%)

#### 課題に対するフィードバック

講義中にチーム別ディスカッションを行い発表をしてもらうことで、学生の理解度を確認し必要に応じてフィードバックを行う

#### 教科書・参考書

教科書は指定しない。授業の都度レジュメを配付する。参考文献はその都度指示する。